

演習 ( )

<p>演習名</p> <p style="text-align: center;">工業経済学演習 ( )</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">川端 望</p>
<p>テーマ</p> <p>1. グローバリゼーション下の途上国工業化戦略</p> <p>2. 産業経済研究の報告と討論</p>	
<p>授業のねらい・内容</p> <p>1. 年度の前半では、グローバリゼーション下の途上国工業化戦略について、産業論的に研究する。すなわち、マクロ経済指標からアプローチするのではなく、個別産業の発展可能性をひとつずつ具体的に検証しながら、包括的な工業化戦略を考察していくアプローチを採る。具体的には、担当者が参加している NEU-JICA (国民経済大学・国際協力事業団) 共同研究プロジェクトによるベトナム工業化戦略の研究成果を検証する。</p> <p>2. 年度の後半では、産業経済に関連する研究を行っている受講者自身の研究テーマに即して、研究報告と討論を行う。したがって、受講者は、(1)産業経済に関連する研究テーマを持っていること、(2)担当者を指導教官、あるいは指導教官ではなくとも研究過程でのディスカッション相手として希望する者であること、の二つの条件を満たすことが必要である。</p>	
<p>テキスト・参考書</p> <p>1.</p> <p>テキスト：大野健一・川端望編著『ベトナムの工業化戦略 - グローバル化時代の途上国産業支援 - 』日本評論社、2003 年を使用する。</p> <p>参考書：以下のサイトで公開している英文・日文ペーパーを使用する。</p> <p><a href="http://www.neujica.org.vn/index1.html">http://www.neujica.org.vn/index1.html</a></p> <p><a href="http://www.grips.ac.jp/teacher/oono/hp/neuj/neujica.htm">http://www.grips.ac.jp/teacher/oono/hp/neuj/neujica.htm</a></p> <p>また、以下も参考となる。</p> <p>大野健一『途上国のグローバリゼーション 自立的発展は可能か 』東洋経済新報社、2000 年。</p> <p>Kenichi Ohno, <i>East Asian Growth and Japanese Aid Strategy</i>, GRIPS Development Forum, 2003.</p> <p>2. 院生が研究報告を行い、他の参加者がコメントする。院生は、研究報告のペーパー・レジュメ・資料を 3 日前までに他の参加者に配布する。</p> <p>各自の研究テーマと担当教官の問題関心・研究方法との整合性は、ホームページや著作で確認しておくこと。</p> <p><a href="http://www.econ.tohoku.ac.jp/~kawabata/index.htm">http://www.econ.tohoku.ac.jp/~kawabata/index.htm</a></p>	
<p>成績評価の方法</p> <p>1 については、前期末にレポートを課す。2 については、平常の出席・報告・討論による。5 月末までに申し出た場合に限り、履修放棄を認める。</p>	
<p>留意事項</p> <p>1 については、数理的手法は用いない。具体的ケースの意味を検証・解釈する議論が中心となる。受講者の言語的制約には配慮するが、原則として多量の和文・英文を読解することが必要である。</p>	